

## 発刊のあいさつ

浦添市教育委員会 教育長 宮城 清

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六十二年度）より「琉球王国評定所文書」刊行事業を推進してきました。「琉球王国評定所文書」は、琉球近世史研究にとって貴重な史料であるばかりでなく、東アジア世界の同時代史料としても重要な意味をもっており、既刊は県内外にとどまらず、海外においても、はばひろく研究に活用されています。

浦添市は古琉球以来の歴史・文化の伝統をふまえ、「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」「教育の進展、文化の高揚をめざす都市づくり」を目指しています。古代の祭祀歌謡集「おもろさうし」にも「うらおそい」と謡われた当市は、かつての王都として栄えた時代の理想を胸に、市民の誇りと自信を培い、文化の創造と発展に寄与することを目的に、市の文化事業の一環として、「琉球王国評定所文書」刊行事業を推進してきました。

今年度刊行の「琉球王国評定所文書」第十六巻には、内務省作成「旧琉球藩評定所書類目録」の通し番号で、一六八七号・一六八八号・一六八九号・一七二三号・一七七〇号、以上五つの文書が収録されています。

このうち、一六八七号から一七二三号までの四文書は、明治改元前後から琉球処分に至る時期の琉球側の記録であり、明治維新史研究および琉球処分研究の基礎資料として、活用される価値が高いものと思われまます。一六八七号「産物方日記」（明治元年～二年）、一六八八号「案書」（明治二年）、一六八九号「産物御用掛日記」（明治二年）には、明治改元から「版籍奉還」までの薩摩側の困乱（「御元御変革」として登場してきます）を示す史料群を含み、また

一七二三号「従大和下状」（慶応元年〜明治十二年）には、「長州征伐」「戊辰戦争」「版籍奉還」「廢藩置县」「西南戦争」といった幕末維新期の重要事件にかかわる記事のほか、琉球処分期の政治過程を暗示する微妙な時期の文書群を収めています。また、一七七〇号「日本他領之船漂着之時御用帳」（雍正元年〜十三年）は、前出、内務省「目録」で「補遺」の項に分類されている史料で、「沖縄県史料」前近代5漂着関係記録（一九八七年）に既に収録されていますが、他文書との関連もあり、今回あらたに収録したものです。これらの史料が多く、市民をはじめ、県内外、海外の研究者の間で活用されることを願っています。

最後に、本事業のために貴重な史料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました、東京大学法学部法制史資料室ならびに国立公文書館の関係各位、また史料の筆耕解読にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げます。発刊の言葉といたします。

二〇〇〇年（平成十二年）三月吉日